

『水のかさをはかろう』

○水のかさ（容積／体積）を測定する

単位(任意／普遍)・・・量の背景として具体の实在がある

例えば・・・3 Lの水 → 水は实在するけど3 Lというものは实在しない。

※連続量の大きさは、**人為的に単位を決めて**、測定という操作によっていくつ分であるかを調べる

任意単位／普遍単位

※体験を通じた意味理解
具体の水のかさを比較する

主体的・対話的
で深い学び

※数学的活動

直接比較

・液面の高さ、器の大きさ 等々…目に見える違いの比較

どっちが 大きい(多い)／小さい(少ない)

1年生で既習事項…レディネスの確認

実態に基づく手立て

間接比較

・カップで○杯分入っているから・・・の方が多
カップで○杯分入るので・・・の方がたくさん入る

任意単位

・○○カップ □□カップ △△カップ
・個人内、または閉じた世界で通用 → 任意単位の限界

→ **普遍単位の必要性に気付く**

普遍単位

・世界共通?の単位・・・いつでも どこでも 誰でも

※ 生活 中 の 算 数

※任意単位の発想や普遍単位の必要性に気付く発想も、生活や遊びの中で実際に体験してみないと身に付かない発想のような気がします。普段の生活の中で、ものの量を比較する方法として、何か別のものを仲立ちにしたり、何かを1単位と決めて、それを基準にして比べたりするという体験をたくさん持たせたるのが大切なのではないかと思います。

日々の授業で学んだことが、子供たちの生活の中で生かされるきっかけにできればいいですね。

※普遍単位の学習をした後であっても、手近なところに1 Lや1 d Lのマスがなければ、代わりものを利用して任意単位の状態で比較したり、別の容器に移して液面の高さを比べたりするなど、工夫できる力を身に付けさせたいですね。正に「深い学び」として定着してこそ発揮できる力だと思います。